

☆伊賀市立大山田中学校区の取組

◆事業概要



1 中学校区の現状と課題

大山田中学校区の子どもたちは、学習や生活に対して真面目な子どもが多い一方、自分に自信がなく学習に対して意欲的に取り組めず、学力の定着に課題のある子が見受けられました。

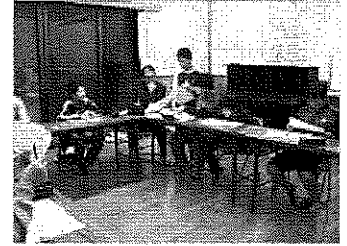
そこで、子どもたちの課題解決のために、子ども支援ネットワーク委員会を組織しました。そして、委員会の中で、子どもたちの現状や課題を出し合ったり、日々の実践を交流し合ったりし、自尊感情や学習意欲の向上、基礎学力の定着をめざす取組を進めました。

2 課題解決のための主な取組

(1) 夏季学習会・冬季学習会

子どもたちの学習意欲の向上と学力の定着・向上をめざし、地元の大学生や退職教職員、住民等が、夏季の18日間と冬季の11日間、ライトピアおおやまを会場に学習会を行いました。

広く地域に呼びかけたことで、大勢の講師が集まり、子ども一人ひとりの学力に応じて指導することができました。大学生や元教員等がきめ細やかで丁寧な指導をしたことによって、登校しづらかった子が学習会に参加することができたり、参加した子どもたちの学習意欲を高めたりすることができました。また、子どもたちと年齢の近い大学生は、子どもたちの身近なキャリアモデルとなり、学力補充はもちろん、子どもたちの大学進学への意識を高めることにもつながりました。



学習会の様子

(2) 親子ヒューマンタイム

保護者や地域住民も子どもと一緒に差別や偏見をなくそうと活動を続ける人から話を聞き、大人と子どもで人権について話し合うこと、グループ討議や全体討議を通して自分を見つめ自分の思いを語り合うことをねらいとして、親子ヒューマンタイムに取り組みました。

子どもたちの討議では、自分の学級を振り返った意見が聞かれたり、各学級における課題について話し合っていくことも大切であると確認したりする場面が見られました。また、保護者や地域住民もグループに分かれ討議に参加し、「子どもがこれだけ人権について学んでいるのだから、大人ももっと積極的に人権について考えていこう。」と意見を述べる場面も見られました。

親子ヒューマンタイム終了後、地域住民から「子どもたちが普段考えていることや、大事に思っていることがよくわかりました。」という声が聞かれました。また、「『自分なりにしっかりとした考えを持っているんだね。』と褒められた。」と言う子どももいました。

地域住民が、子どもたちの思いを直接聞き、子ども一人ひとりが考えていることを知るきっかけとなったと同時に、子どもたちは大人から理解され、「大人はわかってくれている」と感じることで、自尊感情を高めることができました。また、地域住民同士のつながりを深める取組にもなりました。



ヒューマンタイムの様子

◆実践を振り返って

大山田中学校区では、自尊感情や学習意欲の向上、基礎学力の定着をめざして、様々な取組を行いました。とりわけ地域で実施した学習会は、多くの講師が参加することにより、一人ひとりの学力に応じた効果的な指導を行うことができました。取組を進めたことで、これまで学力の定着に課題のあった子どもの学習意欲が高まりました。またヒューマンタイムでは、子どもたちの自尊感情を高める取組となるとともに、地域と学校が連携して活動することで、地域住民が児童生徒の様子を知る機会となりました。

中学校区には、地域全体で学校や子どもたちを支えていこうという雰囲気があります。今後は、これまで以上に子ども支援ネットワークの活動を広げ、より積極的に学校・家庭・地域の連携や協働を進めていきたいと考えています。